

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設計上の問題](#)

[可変帯域幅](#)

[LFI が原因のパケット リオーダー](#)

[Cisco CallManager CAC 制限](#)

[設計オプション](#)

[cRTP を使用または使用しない単一の B チャネルの音声およびデータの共存](#)

[cRTP を使用または使用しない分離 B チャネルの音声およびデータ](#)

[cRTP を使用しない複数 B チャネルの音声とデータの共存](#)

[cRTP を使用する複数 B チャネルの音声とデータの共存](#)

[関連情報](#)

概要

Integrated Service Digital Network (ISDN) を経由する Voice over IP (VoIP) は、特に IP テレフォニーを使用する企業ネットワークにおいて、望ましい組み合わせである場合があります。VoIP に必要な Quality of Service (QoS) を提供するために必要な機能 (低遅延キューイング (LLQ)、クラスベース重み付け均等化キューイング (CBWFQ)、および Link Fragmentation and Interleaving (LFI)) は、ISDN と組み合わせに対してサポートされています。ただし、考慮する必要がある重要な設計上の考慮事項があります。このドキュメントでは、これらの VoIP 関連の QoS 機能を ISDN で使用する場合の注意事項および制約事項について解説し、テスト済みの設定例をいくつか紹介します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ISDN
- ポイントツーポイント プロトコル (PPP)
- マルチリンク PPP (MLPPP)
- LFI
- LLQ
- CBWFQ:
- 圧縮リアルタイム プロトコル (cRTP)

このドキュメントでは、次のテーマの技術トレーニングを提供しませんが、この技術が VoIP ネットワークでどのように連携して動作するかを説明します。詳細については、「[関連情報](#)」を参

照してください。